

第1回札幌市行政評価委員会

会 議 録

日 時：平成29年6月13日（火）午前9時30分開会
場 所：札幌市役所本庁舎 18階 第1常任委員会会議室

1. 開 会

○推進課長 本日は、吉田委員からご欠席される旨のご連絡がございました。

それでは、ただいまから平成29年度第1回札幌市行政評価委員会を開催いたします。

本日は、大変お忙しいところをご出席いただきまして、ありがとうございます。

今回は、平成29年度の1回目の行政評価委員会ということで、委員長と副委員長が選任されるまでの間、事務局で司会を務めさせていただきます。

推進課長の吉田でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2. 挨拶

○推進課長 それでは、開会に当たりまして、本来でありましたら総務局長からご挨拶を申し上げるところでございますけれども、現在開会中の議会の関係で出席することができません。改革推進室長の山田からご挨拶を申し上げます。

○改革推進室長 おはようございます。山田でございます。

委員の皆様におかれましては、大変お忙しいところを引き続き行政評価委員会の委員としてご協力、ご尽力賜りますことを改めまして御礼申し上げます。

昨年度は、通常の行政評価に加えまして、札幌市の出資団体についてのご議論と評価をいただいたところでございました。例年にも増して、皆様には大変なお手数をおかけしたところでございます。私も、事務局としては初めての経験で、本当に大変なものだと改めて認識いたしました。

先ほど推進課長から第2回定例市議会の話がございましたけれども、今日は最終日でございます。先日、定例市議会の各会派からの代表質問が行われまして、その質問の一つに行政の効率化の質問がありました。質問の趣旨は、これから複雑・多様化していく市民ニーズやサービスに対応するためには、金がない中、一層、行政の効率化というものが問われますよということでございました。さらに、その効率化というのは、行政サービスに対応するだけではなくて、我々の事務事業の軽減にもつながる、結局は職員の負担軽減、ひいては精神的な余裕を生み出すことになる、そうすると事務ミスもなくなることにつながるのではないかと、趣旨も含まれているところでございました。

それに対して、市長からは、人材や財源に限られる中、仕事の質や量が変化してきている、行政に求められていることをしっかり把握した上で、今、新たな市民サービスや課題に職員の力を注いでいくことが何よりも重要だと認識しているという答弁でございました。行政の効率化については、これまでも取り組んでいるけれども、例えば、定型的な内部管理業務を委託化するなど、今後とも従来の仕事の進め方や枠組みにとらわれることなく、一層業務を効率化してまいりたいというふうに代表質問に対する答弁として述べたところでございました。

ただ、私たち内部だけでは気づくことのできない行政運営の課題はまだ残っていると思っております。そういった意味からも、委員の皆様から引き続きさまざまな観点から議論

いただき、ご指摘を賜ればと思っております。

今年度につきましては、先ほども申しましたように、一旦は通常の行政評価に戻るわけですが、そうは申しまして、日々、大変お忙しい委員の皆様におかれましては、長期間労力とご負担をおかけすることになるかと思えます。何とぞよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。

◎委員自己紹介

○推進課長 続きまして、委員のご紹介でございます。

資料1になりますが、行政評価委員会の委員名簿といたしまして、皆様のお名前とご所属を記載させていただいております。

今年度1年間、委員の皆様におかれましては、大変なご負担をおかけすることと思えますけれども、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は1回目ということで、委員の皆様から一言ご挨拶をいただければと思えます。

○石川委員 今回、皆さんは再任ということで、改めまして、よろしくお願いいたします。

2期目で終わるかと思いましたが3期目もあったということですが、その3期目も最後ということで、いよいよ今年度が最後の年かと思えます。あっという間の6年だったと思えますが、最後の年も頑張りたいと思えます。よろしくお願い致します。

○蟹江委員 蟹江です。

今年度もどうぞよろしくお願い致します。

昨年は初めてということで要領もよくわからなかったのですが、何となくつかめた気がしますので、今年度は昨年度以上に頑張っているいろいろと発言したいと思えます。どうぞよろしくお願い致します。

○石井委員 石井です。

また、今年度もお世話になります。

たまたま、私は、開発局と北海道と札幌市と評価を三つやっています、それぞれの特色等も見て、いろいろと考えるところもあるのです。昨日、事前に打ち合わせをしたときにも申し上げたのですが、評価の簡素化にもつながる話だと思うのですが、北海道は施策評価と事務事業評価を一体化しています。むしろ、施策評価をメインにしてやるみたいな流れがあって、もともと自治体の行政評価は事務事業評価から始まった経緯があるので、そこをずっと引きずっているのですが、本来はもっと大きなくくりで評価するというのが目的で、欧米は割とそういう流れがあります。

改めて考えると、今、札幌市も総合計画に目標値も置く形で、少なくとも施策評価ぐらいはできるような体系ができていますので、我々の評価も少し事務事業をこなした上で、束ねている施策をどう見るかという議論に、今年度、来年度ぐらいで踏み込んでみると、行政評価の視野が広げられるのではないかと考えています。どこまでやれるか、トライアルみたいな話になると思えますが、ぜひやらせていただきたいと考えています。よろしくお

願いいたします。

○上岡委員 上岡です。今年度もどうぞよろしく願いいたします。

先ほど山田室長ともお話をしていたのですけれども、本当についこの間市長に報告をしたと思ったら、今年度が始まったなという印象です。

限られた時間の中で精いっぱい議論を尽くしていけたらと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○推進課長 皆様、どうもありがとうございます。

続きまして、事務局からご挨拶を申し上げます。

推進課長の吉田でございます。

昨年度に引き続きましてお世話になります。どうぞよろしく願いいたします。

○行政改革担当課長 4月に行政改革担当課長に着任しました川端です。どうぞよろしく願いいたします。

○推進担当係長 推進担当係長の丸山でございます。どうぞよろしく願いいたします。

○事務局 今年度から行政評価を担当させていただきます須藤と申します。よろしく願いいたします。

3. 委員長・副委員長の選出

○推進課長 続きまして、委員長、副委員長の選出に入らせていただきます。

参考資料2に評価委員会規則という資料がございます。そちらの第2条の委員長及び副委員長で、「評価委員会に委員長及び副委員長各1人置き、委員の互選によりこれを定める」という規定となっております。

事務局側の提案としましては、昨年度に引き続きまして、委員長には石井委員、副委員長には蟹江委員にお願いしたいと存じます。ご本人には了解を得ているところでございますけれども、いかがでございましょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○推進課長 それでは、今年度も委員長、副委員長をよろしく願いいたします。

それでは、委員長、副委員長の机上札を置かせていただきます。

4. 議 事

○推進課長 それでは、4番目の議事に入りたいと思います。

石井委員長に進行をお願いしたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

○石井委員長 ここからは、私のほうで議事を進めさせていただきます。

最初に、委員会規則に基づきまして、委員長、副委員長ともに事故があるとき、または、欠けたときのために、あらかじめ職務代理者を指名する必要があります。

石川委員を指名させていただきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

それでは、次第に沿って議事を進めさせていただきたいと思います。

最初に、平成29年度行政評価についてでございます。

まず、事務局からご説明をお願いいたします。

○推進担当係長 それでは、今年度の行政評価についてご説明させていただきます。

資料2の平成29年度外部評価実施案をごらんください。

こちらは、今年度の行政評価委員会の概要と1年間のスケジュール案をお示ししております。

まず、1の(1)評価の位置づけと目的では、行政評価委員会の根拠規定を記載しております。(2)評価対象事項については、平成28年度に札幌市が実施した事業とその上位にある施策を対象としていただきます。

(3)評価の視点としましては、必要性、有効性、効率性、担い手、事業水準などがございます。

(4)評価の方法ですが、事業に関する資料、所管部局へのヒアリング、さらには市民ワークショップで出された意見を参考にしながら評価を行っていただきます。

(5)指摘事項のフォローアップですが、過年度の指摘事項に所管部局がどう対応しているか、所管部局とのやりとりを行い、フォローアップしたいと考えております。

次に、2のワークショップ手法を用いた市民参加の取組です。

市民ワークショップのテーマについては、昨年度と同様、行政評価委員会の対象となった施策・事業の中から、行政評価委員会において設定していただきたいと考えております。

次に、裏面にありますスケジュール(案)をごらんください。

左が平成28年度の実績、右が29年度の予定です。

平成28年度は、出資団体について評価していただきましたので、全6回の委員会を行いました。29年度は、例年のパターンに戻りまして、全5回となります。

流れとしましては、本日の第1回委員会におきまして、評価対象となる施策の候補を選んでいただきます。必要に応じて事前勉強会を行いまして、2回目の委員会で評価対象とする施策・事業を確定していただきます。その後、7月下旬の所管部局へのヒアリングを経て、9月の第3回、11月の第4回委員会で指摘の方向性を整理し、第5回目で報告書を取りまとめ、年明け1月に市長宛てに報告書を手交していただくような流れでございます。

なお、第1回と第2回の間にある事前説明会ですが、昨年度は実施しておりません。こちらは必要に応じて実施していただければと思いますので、開催について委員の皆様にご判断いただければと思います。

もし、事前説明会を開催しないということであれば、まず、今回の委員会で対象とする施策をお選びいただきます。第2回委員会で施策に関連する事業を私どもからお示いたしますので、その中からどの事業を評価するかをお選びいただくことになろうかと思っております。

私からは以上です。

○石井委員長 どうもありがとうございます。

今の説明に対して、ご質問、ご意見等がありますでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○石井委員長 昨年度より少し負荷が軽減されるということのようですが、余り変わらないかもしれません。よろしくおつき合いいただければと思います。

それでは、先に進ませていただいて、また何かありましたら、その都度、出していただければと思います。

いずれにしても、この実施案に基づいて今年度の評価を進めていくことにさせていただきます。

続きまして、議事(2)の評価対象候補(施策及び事業)の選定についてです。

これも、最初に事務局からご説明をお願いしたいと思います。

○推進担当係長 まず、資料3をごらんください。

こちらは、評価対象となる施策及び事業の選定の考え方の案をお示ししたものです。

1番の対象選定の視点について、特定の分野に偏らず、直近3か年に対象となっていない施策を優先していただきたいと考えております。また、市民ワークショップになじみやすいということにもご配慮いただければと思います。

2番の対象事業選定の流れです。本日の第1回の行政評価委員会では、施策の候補を選んでいただき、第2回委員会で施策・事業を決定することとしております。

最後に、一番下にある4番の評価対象施策についてです。施策の数としては、あくまで目安でございますが、2施策程度と記載しております。

参考までに、昨年度は3施策で13事業、あわせて出資団体についても評価いただきました。その前の年度は、3施策で30事業となっております。

続きまして、A3判の資料4-1をごらんください。

こちらは、札幌市の中期計画であるアクションプランに基づく施策体系の一覧表です。こちらの施策の中から対象を選んでいただきます。

続いて、資料4-2は、それぞれの施策に関連する主な事業を示したものです。また、この計画の本書である水色の冊子もお手元にお配りしております。

それから、A4判1枚物の資料4-3は、現在の中期計画の一つ前の計画でございます。平成27年度と平成26年度の行政評価委員会は、この古い計画に基づいて対象事業を決めていただいております。

A3判の資料4-1に戻っていただきたいと思っております。

一番左側に九つの政策目標を示し、その隣の1-①、1-2とあるのが施策です。全部で37ございます。それぞれ右の欄に関連するキーワードを記載しております。

それから、濃い網かけと薄い網かけがありますが、濃い網かけについては、平成28年度の行政評価委員会で対象となった施策です。薄い網かけは、古い計画で対象とした施策を今の計画に当てはめた場合、最も近い施策ということでお示ししております。古い計画

と新しい計画で、施策の範囲がぴったり一致しているわけではございませんので、参考ということで薄い網かけにしております。

最後に、資料5をごらんください。

こちらは包括外部監査のテーマ一覧でございます。今年度は、教育委員会及び市立学校における財務事務についてを対象にすると聞いております。

以上の資料をごらんいただきながら選定いただければと思います。

私からは以上でございます。

○石井委員長 ありがとうございます。

それでは、今の説明を踏まえて、本年度の評価対象をどうするか、委員の方々のご意見を伺いながら、少し追い込みをしたいと思っております。

どなたでも結構ですので、ご意見等がございましたらお願いしたいと思います。

○石川委員 あらかじめ資料に目を通してきた中では、まだあいているところもありますので、今年度はど真ん中と言うべき暮らし・コミュニティの話を知りたいと個人的には思いました。改めて見ると、8とか9はまだ空欄があるなという印象があります。ただ、中身的に8はどのくらいあるのか、まだ読み込んでいませんが、全く手がついていないなという印象です。

○石井委員長 1の何がよろしいでしょうか。

○石川委員 そこまで踏み込むのであれば、私は最後の年ですので、1-②とか3-①のコミュニティのあたりの話を中心に見たいと思っております。8はちょっとわからないので、施策としてはどうでしょうかという提案にとどめて、9は拾っているところが何個かあるので、そこを避けた中のどれかがいいかなと思ったのですが、私はよくわからないので、個別にはたどり着きませんでした。

○石井委員長 上岡委員、どうですか。

○上岡委員 私も、直近の実施状況から考えると、9番が余り取り上げられていないのかなという印象を持っています。その中で、まだ事業数を厳密に検討しているわけではないのですが、9-⑦の交通ネットワークは興味があります。歩いて暮らせるまちづくりのあたりでしょうか、自転車をどういうふうに活用していくかという議論の中で、札幌市としてどのような交通マネジメントを考えていくべきかというところもやはり検討したほうがいいのではないかと議論があったと思っておりますので、そういったところから9-⑦に興味を持っています。ただ、一方で、交通ばかり続くので、逆に、控えたほうがいいのかなとも思っています。

それから、8もきれいに何も網かけがついていないです。8のどこかというところまでは、まだ自分の中でも絞り込めていないのですが、この中のどれかを検討できたらいいのではないかと今の時点では思っています。

○石井委員長 蟹江副委員長はいかがでしょう。

○蟹江副委員長 私は、1のところは重たいなという感じがします。私の住むところの町

内会を見ても、1-①は差し迫った問題であるので、興味はありますけれども、いかんせん重いなという気はします。

キーワードにつられて、4-①のような札幌発で全国に向けたもので、さっぽろスイーツというのはマスコミでも取り上げられていることが多いですけれども、行政上は実際にどういう形で行われているのかは少し興味があり、ここに最も目が行きました。

また、4にもありますが、8のエネルギーの問題もいろいろとされています。特に循環型とか次世代エネルギーについて、中身がどうなっているのかわからないということはありますが、だからこそ、見てみてもいいと思います。逆に、市民の皆さんも興味があるところかと思しますので、ワークショップなどでも取り上げてみてはどうかと思います。

○石井委員長 私は、ざっと見て、これから最も大きな課題になるものだと思いますので、1-②くらいは、重たいけれども、やってみてはどうかと思います。

また、埋まっていないという意味では、8、9から1個選んではどうかと思います。8については、主要施策としては余り出ていないので、これだったら施策1個だと詰まらないと思います。逆に言うと、8であれば二つ、三つやってもちょうどいいところかと思えます。8から三つくらい選んでもいいと考えました。

ある程度網かけがついているところは今回は対象外にするということからすると、見方はそんなに変わらないと思います。

暮らし・コミュニティのところで、1-②や3-①あたりが出ましたけれども、この辺は随分幅が広いですね。ここに挙がっているのは五つですが、分野で言うと結構ありますね。

○改革推進室長 これは主な施策ですが、分野で言うともっとあります。

○推進課長 青い冊子で言いますと、19ページです。

○石井委員長 これは体系をよく考えたことがないのですが、例えば、介護保険そのものの実施みたいな話はここに入ってこないのですか。

○推進課長 どちらかというところ、市民向けのサービスとしての事業を並べたものになっています。

○石井委員長 それでも、計画で言うと、全施策がどこかにぶら下がっているのですね。

○改革推進室長 そうです。全小事業がぶら下がっています。さらに、22ページのその他の事業というところにもぶら下がっています。

○推進課長 そうですね。細かいものはその他というところですね。

番号を振っていないからわかりにくいですが、介護保険のサービスということで言えば、22ページのその他の事業の真ん中あたりに、介護給付費等給付適正化推進事業、1,400万円とあります。

○石井委員長 介護保険自体の事業費はもっと大きいはずですが。

○改革推進室長 介護保険の事業費は載っていないと思います。ちょっと調べないとわからないですね。

○石井委員長 改めて、どこまでが事務事業になるのかということで伺ったままで。適正化事業というものが入っているとすれば、場合によっては本家本元の介護保険事業も見なければいけないと思います。国保も介護保険も項目として出ているから、そういう一般的な制度もここに入っているという理解でいいでしょうか。

○推進課長 施策としては入っていると思います。

○石井委員長 つまり、かなり幅が広い施策になるということでしょうか。

3-①の地域活動を活発化する環境づくりについて、石川委員はいろいろやっておられますが、関心がおありですか。

○石川委員 1-②という話をしたのは、1-①の消費者行政やDVというのはもうやってしまったと思うので外しまして、1-③は網かけがついているので、1の中からは1-②を選んだのです。

○石井委員長 私も、1-②は、基礎自治体としての札幌市としてはかなり大きな施策分野ですから、たまにはいいかなと。これから団塊の世代が介護世代に入ってきますから、高齢者福祉なども一番の事業施策領域になりますので、ちょっと難しいテーマにはなりますけれども、タイミング的には今のうちに見ておくのは意味があると思います。ただ、こういう重たい施策を選ぶのなら、二つくらいにしておいたほうがいいですね。

頑張って、これをやってみますか。割とコンセンサスがあると思いますが、いかがでしょうか。

○蟹江副委員長 重たいですよ。

○石井委員長 市民ワークショップを考えるのであれば、これをさらに狭める形でもいいのでしょうか。ほかにも選ばれるので、これと限ったことではないですが、この施策レベルの広がりだと無理ですね。

○改革推進室長 去年の公園がそうでしたね。皆さんどこの地域に住んでいても、割とイメージが湧きやすく自分のこととして語れるということで、公園というワークショップでした。

○石井委員長 この中なら、事務事業に近いくりでワークショップに選んでも一定の関心を持ってもらえるテーマもあると思います。

1-②を候補にするということによろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○石井委員長 ほかに3、4、8、9が挙がっていますが、もう一つ、改めてこれをというものはありませんか。

私も食の魅力を生かした産業の高度化という施策に興味を持ったのですが、こんなことを言ったら怒られるかもしれませんけれども、大して施策がないのです。

実際には、市内の食品産業の集積が結構大きいですね。2,000億円という数字があります。

○上岡委員 保健福祉サービスで生活に密着したものを取り上げるのであれば、食のブラ

ンド力の強化など外に発信する課題というのは、バランスとしていいと思います。ただ、事業数という意味では多少少なくなってくるのでしょうか。

○石井委員長 逆に、事務事業が足りない、もっとやれという意見もあるかもしれません。たまにそういう意見の可能性もあるというのは変な言い方ですけどもね。

9は、バランスから見てどうでしょうか。

○石川委員 9-⑦というご提案があったのですが、これはやった記憶があると思って資料を見ていました。資料4-3の3-4-1で網かけがついていて、直近3年の中に入っていました。下を見ると網かけは平成25年度から27年度ですから、25年度にやっているのです。僕の記憶には残っているのですが、4年近くたっているというのはありますね。

○石井委員長 産業は前向きな話だから、思い切って選ぶというのも手かもしれません。ただ、どちらも評価は難しいと思います。

○上岡委員 まだ取り上げていない分野があるのであれば、そちらを優先的にというのはあると思います。

○石井委員長 あえて言うと、次世代エネルギーの話はどうするかですね。こっちは、個別に見るとどれぐらいあるのでしょうか。

○石川委員 ごみをやっただと考えれば、8-④はそこそこやっていますね。

○改革推進室長 石川委員がおっしゃったように、網かけになっているけれども、年度が入っていないのは、多分、平成25年度のもので。

○石井委員長 やっているのだったら、今年度はやめますか。

○石川委員 8-④だけです。

○蟹江副委員長 8のところの事業数は少ないですね。

○石井委員長 次世代エネルギーというのはそんなにいっぱいいないですね。

○蟹江副委員長 公共施設の老朽化が結構問題になっています。9-⑩ですが、1-③の防災のところでも既に検討されているのでしょうか。

○石川委員 余りやっていないですね。

○蟹江副委員長 ここに上がっているのは、必ずしもその問題だけではないですね。

○石井委員長 9-⑩のところは、大体の分野では計画づくりをされて、実施段階に入っている公共施設の維持更新ということでいうと、今は大体そういう段階に来ていると思います。

○改革推進室長 本書で言うと、9-⑩は93ページ以降になりまして、防災力というところからきているのが主なので、改修などが多そうですね。長寿命化、修繕、改修、耐震化という言葉が出ています。

○石井委員長 実際には、地域によって人口減少がかなり進んだりするので、そういうところに対応したということですね。全体で言うと、全て維持していくという考え方なので、逆に言うと、そのあたりが持続的なのかどうか、外の目で検討する視点はあるといえ

ると思います。公共事業ということからいうと、ここら辺が今後の最大の対象分野です。

今日的テーマであると思いますが、これも範囲がすごく広いので、とても重たいと思います。やるとしたら、少し絞り込んでやらないと、バランスとしては二つをフルに近い形でやると事務事業の数がかなり多くなります。上手に選べば、それなりのバランスになると思います。今年度は重要度で選ぶという選択だと、この二つを選ぶということはあると思います。

案外、おもしろいかもかもしれませんね。札幌市の大きな施設も20年ぐらいたって、Kitaraとかドームもそろそろ本格的な維持更新を考えなければいけない時代に入ってきていますね。

○蟹江副委員長 ドームは、まさしくそう書いていますね。

○石井委員長 むしろ、そういうことをにらんで、重点的に見て意見を言うということであれば、やりようがあると思います。

○蟹江副委員長 思い切って、やってみますか。

○石井委員長 建物の維持更新をやってみますか。私は、計画をつくるときの委員になっていたのですが、市営住宅をどうするかなどというのは、皆さんとは違う意見を言ったので、最後まで意見がかみ合いませんでした。要するに、民間に住宅をつくってもらって、20年とか借り上げ市営住宅みたいなことができるかと言うと、公営住宅のほうが補助金ももらえるので、そちらを選択するということでした。でも、本来的には違うのではないかと思います。人口が減少することに上手に対応するという話があるのではないかと思います。議論をしたのですが、うんともすんとも言ってもらえませんでした。教育施設や住宅というのは独自の計画を持っており、全体の調整が入っていることは入っているのですが、余り調整されない感じがあって、建物をどうするかという全体の見直しの中でも議論が不十分だった意識があります。ピックアップする分野を少し絞って、幾つか議論してみるというのは意味があるかもしれません。

重たいテーマ二つでいって見ますか。

どちらも施策がすごく多いので、どう選ぶかという議論をしないと、我々のほうがパンクしてしまう可能性があります。どの程度の事務事業を見るかということをよく考えて、調整してやる必要があると思います。

○改革推進室長 そうなると、今回、市民生活のソフトとハードの部分という感じですね。

○石井委員長 もちろん全部大事ですけども、特に施策の重要度として今見ておくものを選びたいと思います。

それでは、その二つを候補とさせていただいて、いずれにしても、その中で何を選ぶかということをやうまくやらないとだめですね。

○改革推進室長 どちらの施策も事業が多いです。

○石井委員長 まともに施策を拾うというスタイルでは無理だと思うので、何を拾うかは知恵を出していただいて、施策の骨格は押さえながら重点的に個別の事業を見るというよ

うな進め方を考えなければいけないと思います。そこを次回までにそれぞれ見ていただいて、この中で何をやるかというところを上手に議論させていただきたいと思います。

それでは、今年度の対象事業については、とりあえず、こんな絞り込みでよろしいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○石井委員長 先ほども申し上げたのですが、今、道も試行錯誤しています。今までのところ、札幌市は考え方としては5年で全部やるという選び方をしていますが、総合計画の体系で言うと、施策ごとに数値目標が置いてあって、数値目標がしっかりクリアしているものとクリアされていないものという整理もできるのです。そういう意味では、優等生と劣等生の施策という整理が一応できます。事務事業は成績がよくても、施策などの大きいレベルでバツがつくということは当然あり得るわけです。ただ、どちらを重視するかというと、指標が達成できていないことを重視するというのが本来の政策評価だとあるわけです。

ですから、そろそろ順繰りで回るのではなくて、違う選び方をするというアプローチを考えてもいいと思います。今年度は考えなくてもいいですが、そろそろそういうことも考えると、施策評価らしいアプローチになると思います。去年度、今年度で道のほうもどうしよう、こうしようということで、まだ定まっていないのですが、施策評価に議論をどう移すかという議論をしています。札幌市は、基本的には事務事業と施策を評価することになっているので、その意味では本当は施策評価をやっていることになっています。その実態をどう再整理するかということは、そろそろ考えてもいいのではないかと思います。

これは、すぐの話ではないですが、場合によっては選び方を工夫するとちょっと違うアプローチができるかもしれません。ただ、それが本当にいいのかどうかというのは微妙な面もあるのです。要するに、事務事業がほとんど丸でも施策がバツのときにどうするのか、選んで評価して何を言うかというのはすごく難しい話になります。ですから、変な話だけれども、新しい事務事業をしろと言うことも必要なのですが、そんなことを言える能力が我々にあるのかということも実際には厳しいところがあります。うまくいくとは限らないというところはありますが、外の目で見直しをするという意味合いでいうと、事務事業ベースの見直しというのは実は内部でできているので、そうではない視点を入れるというほうが重要なかなと思います。

今年度は、そんなことも考えながら作業をしていって、来年度以降、工夫できるところは工夫していくように考えていきたいと思います。

いずれにしても、候補を二つ選ばせていただいたので、次回までに、この中で何をやるかと有効に評価を進められるかということに関して意見をお考えいただければと思います。

それでは、次の議事に入らせていただきます。

平成28年度の行政評価の報告でございますが、これにつきましても、事務局からご説明をお願いします。

○推進担当係長 資料6をごらんください。

こちらは、昨年度の行政評価委員会のご指摘に対して、事業所管部局から今後どのように対応していくのかということをお示ししたものです。

幾つかご紹介いたしますと、一番左の番号ナンバー1からナンバー4が施策歩いて暮らせるまちづくり関連です。

まず、ナンバー1ですが、地下鉄駅のエレベーターの整備に関して、地上からホームまでのバリアフリー化された動線について、わかりやすい誘導を行うべきとの指摘がございました。

所管からは、今後の整備に当たっては、病院など周辺施設の立地状況を踏まえて、利用しやすい動線となる位置にエレベーターを設置するよう調整を図っていくとの回答がありました。

続いて、ナンバー5からナンバー8が施策多様な活動を支える環境に優しい交通体系の確立の関連でございます。

このうち、ナンバー5につきましては、自転車マナー向上対策について、札幌市としての目標を提示した上で進捗を示し、啓発を行っていくべきとの指摘がございました。

所管からは、関係者と意見交換しながら周知啓発方法について検討していくとの回答がありました。

最後に、ナンバー9からナンバー16までが施策自然との共生とみどり豊かな都市づくりの推進の関連です。

このうち、ナンバー10については、公園整備後に、当初想定したニーズが実態に合っていたかどうか、事後検証することとの指摘がございました。

所管するみどりの推進部では、公園整備の効果について、市民アンケート等を用いて検証し、必要に応じて方向性を見直しを図っていきたいという回答となっております。

以上のように、昨年度、委員会から頂戴しました指摘につきまして、所管部局でどのようなことが具体化できるか、前向きに検討に取り組んでいるところでございます。

資料6は以上でございます。

続いて、資料7は、市役所の内部評価としまして、改革推進室と財政部から事業所管部局へ、業務の見直し、改善に向けて検討を促しているものの一覧を参考資料としてお示しいたしました。

続きまして、資料8でございます。

こちらは、昨年度の市民ワークショップにおける市民からいただいた改善案と、それに対する札幌市の考え方でございます。

個別のご報告は割愛いたしますが、内容につきましては、ホームページで公開させていただいております。

昨年度の委員会のご指摘、ワークショップに対する市民のご意見への対応については以上でございます。

○石井委員長 ありがとうございます。

今の報告につきまして、ご質問等はございますか。

一応、ゼロ回答はないので、それなりに対応していただけるという回答内容かと思いません。

○石川委員 資料8ですが、取組の方向性で、行政評価委員会において対応するという意味合いを教えてください。

○推進担当係長 こちらは、昨年度、市民ワークショップが8月、9月にありましたけれども、そのときに、この案についてどう扱うかというところで、行政評価委員会の指摘のほうに反映させていただく、吸い上げていただくという意味で、このように書かせていただいております。

○石川委員 ここで言うところは聞き置くというニュアンスが強かったと思いますが、このように横並びにすると、別枠で取り組むというようにとれるかなと思ったのです。

○推進課長 検討していることについては同じですが、扱っているチャンネルを行政評価委員会の指摘として扱うのか、あるいは、ワークショップの指摘として扱うのかという違いでこのような書き方をさせていただいたのですが、もしかしたらわかりにくかったかもしれません。

○石川委員 我々は年度によってテーマが変わってくる中でこう書いてしまうと、どのように読まれるかなと感じました。

○蟹江副委員長 これは、このとおりホームページに出ているのですか。

○推進課長 この形で出ています。

○蟹江副委員長 平成28年度と書いていますが、対応するというと、評価に取り込むという趣旨でしょうか。

○推進課長 今後のワークショップの扱いについては、また考えていきたいと思います。

○石井委員長 これは、対応したと言えればいいのではないですか。要するに、委員会の議論でやったということだったら、対応したという言い方だと余りひっかかりがなく、するということこれからやらなければいけないという話になります。交通整理としたら、上手に切り分けていただければいいということですね。

○石川委員 そうですね。

○推進課長 わかりました。

○石井委員長 これは、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○石井委員長 その他という議事を用意していますが、委員の皆様から何かございますか。

(「なし」と発言する者あり)

○石井委員長 事務局からは何かありませんか。

○推進課長 1点確認ですが、次回、対象となる事務事業を選んでいただくことになりますけれども、それに向けての事前説明会は省略ということでもよろしいですか。

○改革推進室長 今回、1回目と2回目の委員会の間でタイトになってしまいましたもの
ですから、やるとなれば大急ぎで我々は動きます。ただ、昨年度やりませんでした。

○石井委員長 物すごくたくさん事務事業がありますので、聞いてから考えるということ
では大変難しいので、選んでから聞きましょう。

○石川委員 この経緯は、ぼんとヒアリングをしてしまうと、基本的なことも聞いてしま
いがちになるのですが、ヒアリングはそういう議論をする場ではないということで、事業
についてはあらかじめ話しておきたいということから始まったと思います。ざっくりいう
と、事務方の意向があったというのが事前説明会を発足した趣旨だったと記憶しています。
ですから、ちゃんと読み込んでヒアリングに臨むということであれば必要ないけれども、
ヒアリングは個別に確認したいことを聞くので、それ以前の事業の仕組みやどういうふう
になっているのかを知りたいということであれば事前説明を聞きたいということだったか
と思います。

○石井委員長 選んだ上で、制度的なことも含めてどうしても勉強したいということがあ
れば、むしろ2回目以降に設定していただくこともありという話にさせていただいてよろ
しいですか。

○改革推進室長 去年もそうだったのですが、ヒアリングの前に委員の皆様から文書でい
ただいて、ヒアリングのときにすぐ答えられるような体制にして、なるべく効率的にする
ようにしました。

○石井委員長 今回は難しいテーマを選んでいるので、場合によって、例えば、施設の話
だったら基本となる計画の概略を聞くということは、2回目以降に部分的にお願いする
ということにさせていただいて、いずれにしても、対象事業を選んでからということにする
ことでよろしいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○石井委員長 それでは、そのようにお願いします。

5. 閉 会

○石井委員長 それでは、ご協力いただきまして、非常に短時間で終わりましたが、次回
のほうは議論が難しいと思いますので、くどいようですが、ご意見を絞り込んでいただき
たいと思います。

きょうは、これで終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

以 上